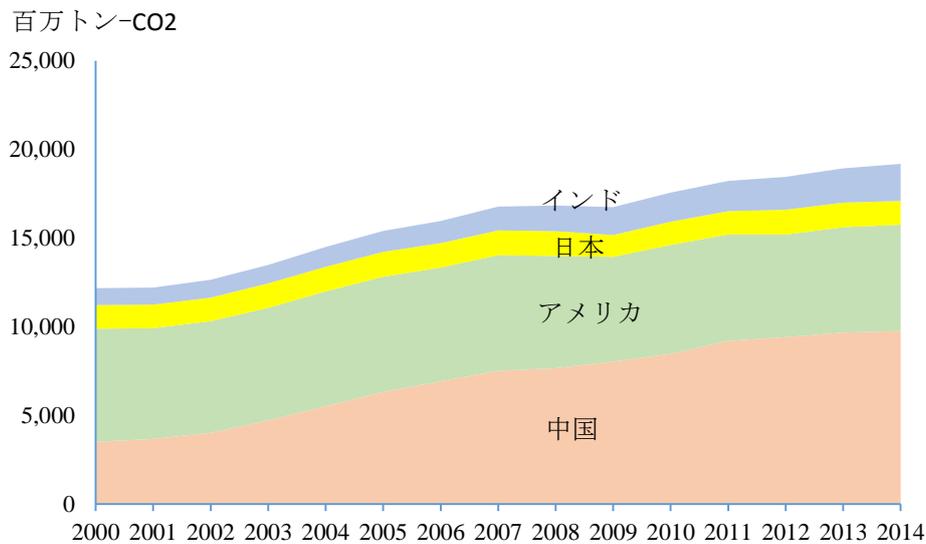


BP 統計から見た中国のエネルギー統計、特に石炭需給統計修正の動向

BP の最新統計¹によると、中国の 2014 年の一次エネルギー消費は合計 29.7 億 toe（石油換算トン）で、世界の一次エネルギー消費総量 129.3 億 toe に占める比率は約 23.0% である。しかし、IMF のデータによると、2014 年の中国の経済規模は世界経済全体の 13% 以下であり、エネルギー消費と経済を対照すると、中国の粗放な生産構造や低いエネルギー消費効率などの問題が浮き彫りになる。また、2014 年の中国の二酸化炭素排出量は 97.6 億トンで、アメリカの 60.0 億トン、日本の 13.4 億トンを大幅に上回っており、世界全体の 27.5% を占める。



(出所) BP 「Statistical Review of World Energy June 2015」

図 1. 中国及び日米印の二酸化炭素排出

他方、中国経済成長の減速に伴い、エネルギー消費の伸びも鈍化している。BP 統計によると 2014 年の一次エネルギー消費の対前年伸び率は 2.6% に止まり、2008 年の金融危機以降の最低水準となった。また、第 12 次 5 カ年計画期（2011～2015 年）の 2011～2014 年の年平均増加率は 4.7% で、第 11 次 5 カ年計画期（2006～2010 年）の 6.6% と比較すると 1.9 ポイント下がっている。

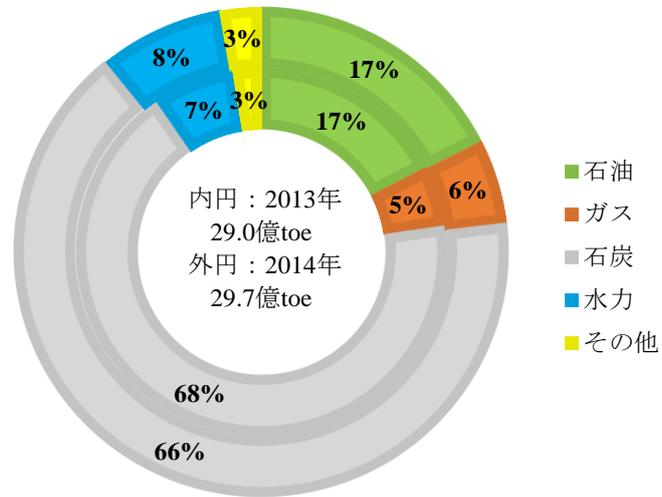
中国国家统计局の「2014 年国民经济社会发展统计公报」²によると、2014 年の国内総生産 (GDP) は 63 兆 6,463 億元、成長率は 7.4% である。BP 統計をもとに試算すると、2014 年の GDP 当たりのエネルギー消費は 0.47toe/万元であり、2010 年の 0.57toe/万元と比べると低下し、エネルギー消費効率がやや改善されたと見られる。また、2014 年のエネルギー消費弾性値は 0.35 である。

中国のエネルギー消費は依然として、石炭を中心とする消費構造である。BP 統計によると、2014 年の中国の石炭消費は 19.6 億 toe で、一次エネルギー消費に占める比率は 66%、石油消費は 5.2 億トン、天然ガス消費は 1.7 億 toe、水力・原子力・その他再生可能エネルギー消費は 8,167 万 toe

¹ BP 「Statistical Review of World Energy June 2015」

² 中国国家统计局。http://www.stats.gov.cn/

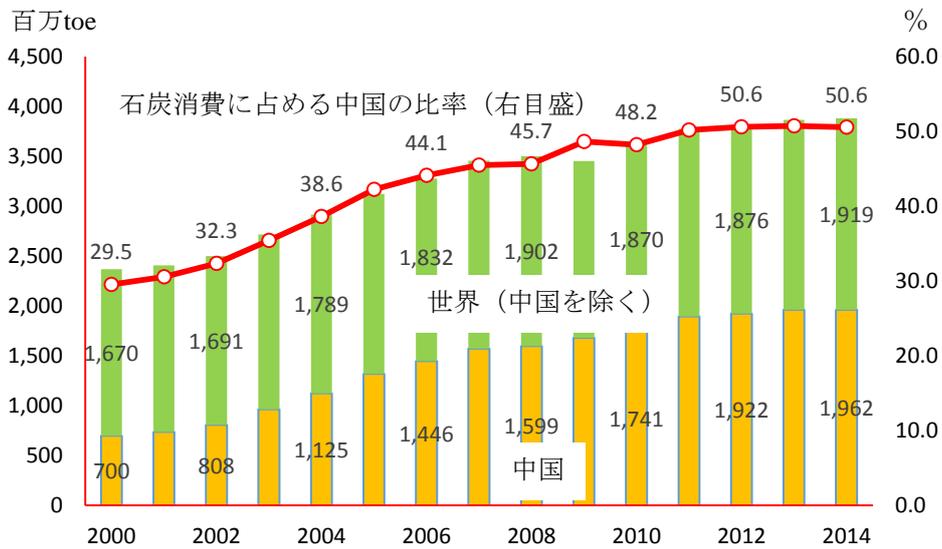
である。



(出所) BP 「Statistical Review of World Energy June 2015」

図 2. 中国の一次エネルギー消費構造

2014年の中国の石炭消費は世界の石炭消費全体の38.8億toeのうち50.6%を占めており、2000年の29.5%と比べると21ポイント以上上昇したことになる。中国の石炭消費の変動が世界の石炭需給に与える影響は極めて大きい。

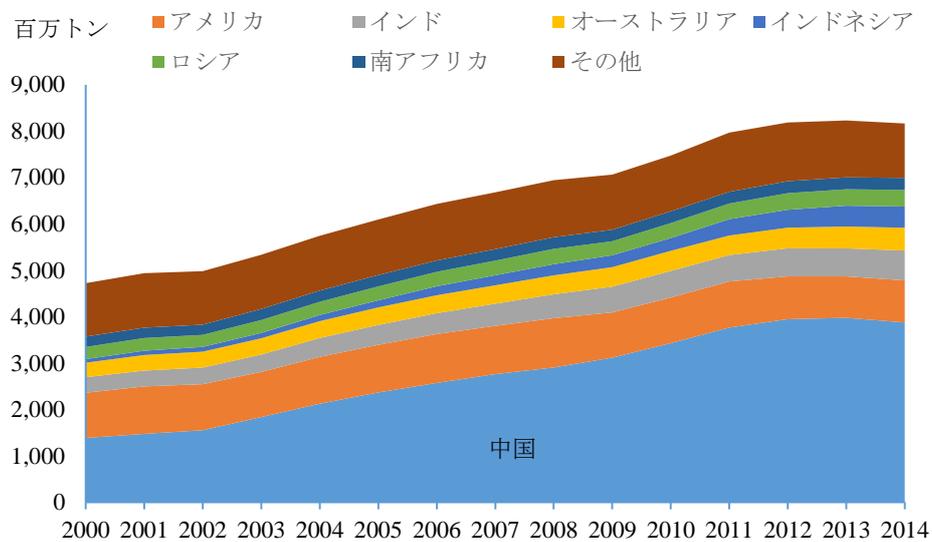


(出所) BP 「Statistical Review of World Energy June 2015」

図 3. 中国と世界の石炭消費量

また、BP統計によると、2014年の世界の石炭(原炭)生産は81.6億トンであり、その中で中国の石炭生産は38.7億トンに上り、全体の47.4%を占めた。中国の石炭生産の変動も消費と同様

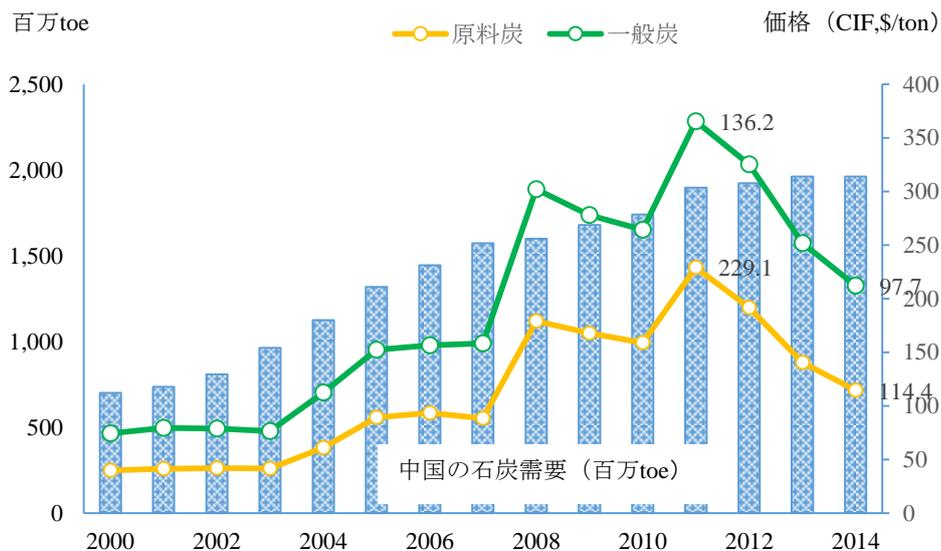
に世界の石炭需給に与える影響が大きい。



(出所) BP 「Statistical Review of World Energy June 2015」

図 4. 中国及び世界の国別石炭生産の推移

日本の一般炭と原料炭の輸入価格 (CIF) の推移と中国の石炭需要と比較対照すると、中国の石炭需要が増加した 2000～2007 年には日本の石炭輸入価格も徐々に上昇した。一方、リーマンショックの影響で世界経済が萎縮し資源価格が下落した 2008～2010 年を別にすれば、2011 年以降における中国の石炭需要の伸びの鈍化に連動する形で日本の輸入炭価格も低下していることが分かる。

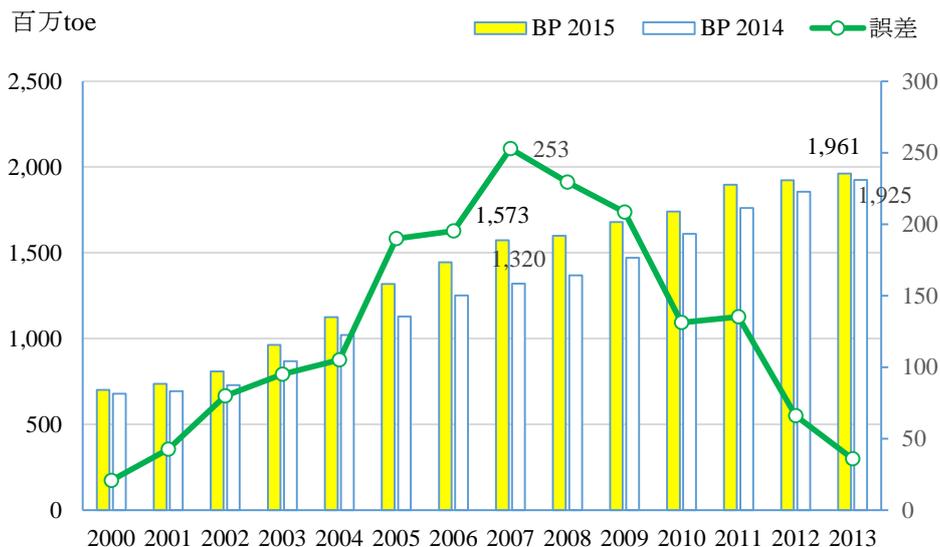


(出所) BP 「Statistical Review of World Energy June 2015」

図 5. 中国の石炭需要と日本の輸入炭価格

中国国家統計局は2014年末に予定されていた「中国エネルギー（エネルギー）統計年鑑」の出版を延期したが、2015年6月時点では依然出版時期は明らかにされていない。また、国家統計局は2015年2月に公表した「2014年国民経済社会発展統計公報」の中で、2013年以前の統計を修正としている。以下、2015年版並びに2014年版のBP統計を用いて、中国のエネルギー統計の修正内容について解析する。

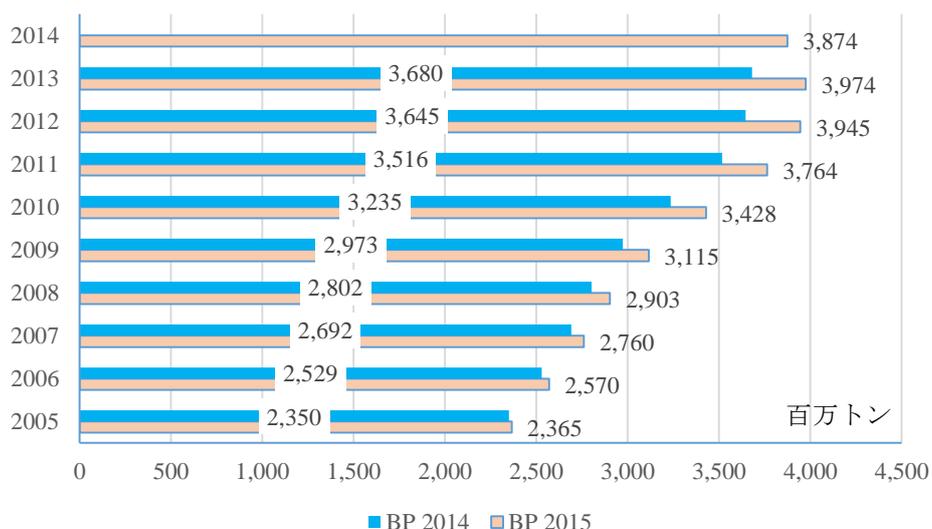
2015年版のBP統計は2000年以降の一次エネルギーの数値を大幅に修正している。2014年版のBP統計は2013年の中国の一次エネルギー消費を28.5億toeとしていたが、2015年版では約29.0億toeに修正され、両者の誤差は4,572万toeに上る。また、2007年における一次エネルギー消費の数値の誤差は2.5億toeに達している。また、一次エネルギーの中で修正幅が最も大きいのは石炭である。2014年版のBP統計は2013年の石炭消費を19.3億toeとしていたが、2015年版では19.6億トンに修正され、誤差は3,593万toeになる。石炭消費の誤差が最も大きかったのは一次エネルギーと同じく2007年であり、2014年版と2015年版には2.5億toeの差がある。この2.5億toeもの誤差は日本の2014年の一次エネルギー消費4.6億toeの半分以上に相当する。なお、その他のエネルギー源（石油、天然ガスなど）については、修正幅はわずかなものに止まった。



(出所) BP 「Statistical Review of World Energy June 2015」、「BP Statistical Review of World Energy June 2014」

図 6. 中国の石炭消費と統計問題

また、石炭生産については、2014年版のBP統計では2013年の石炭生産は36.8億トンとされていたのに対し、2015年版は約39.7億トンに修正しており、両者の誤差は2.9億トンとなる。さらに、中国の第12次5ヵ年計画（2011～2015年）は2015年の石炭生産を38億トン以内に抑えるとの計画指標を掲げていたが、2015年版BP統計によると、第12次5ヵ年計画1年目の2011年には石炭生産は早々と37.6億トンに達しており、2年目の2012年には石炭生産は計画指標を超え、39.5億トンに達した。



(出所) BP 「Statistical Review of World Energy June 2015」、「BP Statistical Review of World Energy June 2014」

図 7. 中国の石炭生産と統計問題

ところで、中国政府が 2014 年 2 月に言及していた 2013 年以前の統計修正結果を明らかにする前に、BP は 2015 年版において大幅な修正を行ったことになるが、これは BP が中国側から基礎データの提供を受けて修正を行ったものであり、実質的に中国側のエネルギー統計修正の意向を受けたものと見られる。中国政府が統計の修正作業を進めるのは、CO₂ 排出量の算定と関連していると推測される。今年の COP21 で各国は公約草案を提出しなければならないという国際合意があり、2014 年 11 月の APEC 会期中に米中両国は GHG（温室効果ガス）排出の削減を合意していた。GHG 排出量は 2005 年あるいは 2010 年の排出量を基準年として計算するため、2005 年もしくは 2010 年のエネルギー消費量が高くなると基準 GHG 排出量も大きくなり、その結果、2030 年又は 2050 年の CO₂ の所要削減量を少なくすることが出来る。これが中国の統計修正の目的の一つと見られる。

最後に、本資料は BP 統計に基づいて解析したものであり、中国の公式統計が公表され次第、追加分析を行うことが必要である。

(エイジアム研究所 首席研究員 張 継偉)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>